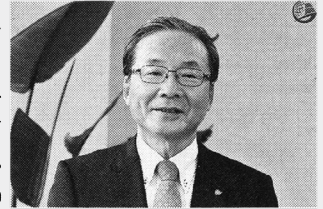


グローブシップがWEBセミナー

コロナ禍における職場の感染症対策

矢口敏和社長



グローブシップ(株)は、「企業のコロナ対策とグローブシップの取り組みについて」と題するセミナーをWEBで開催した。(動画は2020年11月16日～30日の期間の限定配信)

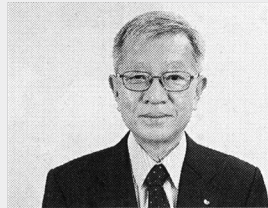
セミナーに先立ち矢口敏和代表取締役社長は、「新型コロナウイルスの国内感染者が確認された1月末には、社内に緊急対策委員会を立ち上げ、行動指針や、感染者が発生した場合の対応手順など、周知徹底を図り十分な対策を取ってきた」と説明し、「社員の感染防止に最大限の注意を払うとともに、取引先施設へのサービス水準を維持しつつ、積極的な感染防止対策を提案していきたい」と述べた。

さらに、「新型コロナウイルスとの共存は

今後2～3年続くと感じている。コロナ禍のなか、新しい生活様式を見据え、新たなサービスやビジネスモデルの構築にも取り組んでいる。この機に、感染防止と高水準の業務提供を両立させ、もう一段高いレベルの企業に成長したい」と、さらに前進していく姿勢を示した。

セミナー第1部では、(一財)明治安田健康開発財団・明治安田新宿健診センター所長・東京慈恵会医科大学客員教授の内田賢氏による「新型コロナウイルス感染症 今日そして明日」と、(一財)明治安田健康開発財団・明治安田新宿健診センター保健指導グループリーダーの米澤裕子氏による「職場における感染症対策」の2つの講演が行われた。

内田賢氏



内田氏は「新型コロナウイルス感染者の80%は軽症で、14%が重症、6%が重篤となっている。また、死亡率は50歳以下が0.5%なのに対し、60歳代では5.5%、70歳代では17%、80歳代では30.2%と、高齢になるほど死亡リスクが高まる傾向にある」と解説した。

新型コロナウイルス収束後の社会については、「新しい生活規範が必要。そのひとつである在宅勤務には、経費節減、感染リスクの低減といったメリットがある一方、コミュニケーションの不足、心身への影響といったデメリットがある」と述べた。

内田氏は「新型コロナウイルスからの回復には、2年以上の長い時間がかかる。この間、重要となるのが『健康』と『人の絆』である。きちんと健診を受け、健康に過ごしてほしい」と講演を締めくくった。

米澤氏は、「身体的距離の確保」「マスクの着用」「こまめな手洗い」「3密の回避」を基本とした生活習慣の実践に加え、体調不良者が自宅待機できるような職場環境など「従業員の感染の可能性がある」に置いた対応が必要」と述べた。

また、職場内では座席の配置を検討し、仕切りのない対面の座席配置は避け、可能な限り対角に配置したり、横並びにしたりする工夫を呼び掛けた。

さらに、デスクまわりや不特定多数が触れるドアノブ、手すり、電気スイッチ、コピー機などは、定期的に消毒することを求めた。そして、「新型コロナウイルスに感染しないためには、健康な生活を送ることが大切。日ごろから食事、適度な運動、睡眠を十分にとり、生活習慣病を予防し、1日1回は笑いましょう」と述べた。

米澤裕子氏



セミナー第2部では、同社常務取締役・瀬本陽一郎氏の「Withコロナに向けたワークプレイス環境の構築」と題する講演が行われた。

瀬本氏は、コロナ禍における清掃は「美観」に加え「安全」と「清潔」が求められるとして、同社が展開する「除菌・抗菌クリーニングメンテナンスサービス」について次のように説明した。

清潔なワークプレイスを維持するため、日常的な清掃でリスクを低減させる「ダストコントロール」、感染予防策としての「恒常的な抗菌対応」、清掃効果や清潔度を見える化する「頻度契約から品質保証契約へ」。そして、AIロボットの導入、除菌・抗菌サービスメニューの拡充、清潔度を数値で証明する「効果の見える化」の継続的な実施により、サービスの質の向上を図っていく。

瀬本陽一郎常務

